



公益社団法人  
大分県薬剤師会  
Oita Pharmaceutical Association

入場 無料  
事前登録不要

県民公開講座

# がん治療最前線

日本人の死亡原因第1位は「悪性新生物（癌）」ですが、近年治療方法は急速に進歩しています。最先端の治療方法、癌薬物療法における薬剤師の役割や治療中の脱毛対策等についてお話させていただきます。

日時 2017年4月16日(日) 10:00~12:00  
会場 ホルトホール大分3階 大会議室

10:00~10:03

主催者挨拶 公益社団法人大分県薬剤師会 会長 安東哲也

10:05~10:30

講演 1 「がん専門薬剤師が教えるがん薬物療法の知識」

大分大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長  
日本医療薬学会がん指導・専門薬剤師 佐藤雄己先生

10:30~10:55

講演 2 「治療中もいつもの私！～外見の変化をカバーしてスイッチON～」

株式会社スヴェンソン レディース事業部 医療事業グループ  
毛髪技能指導士 河津英子先生

11:00~12:00

特別講演 「がん死をなくすための先端的アプローチ」

九州大学病院別府病院 外科教授 三森功士先生



主催：公益社団法人大分県薬剤師会 共催：大分県病院薬剤師会  
お問合せ：大分県薬剤師会女性薬剤師部会 Tel: 097-544-4405  
日本薬剤師研修センター 1単位  
日病薬病院薬学認定 申請領域未定 1単位申請予定

## 特別講演 「がん死をなくすための先端的アプローチ」

国民の二人に一人が罹患し、三人に一人がなくなる国民病である「がん」。いま医療現場では、外科手術、化学療法、放射線療法を行いそれぞれの分野で「癌死の遡減」を目指した様々なアプローチがなされています。もちろん、早期がんをみつけ治療をすることが最も負担が少なく良い方法ですが、進行がんで見つかることは少なくありません。がん死の原因は転移と再発にありますので、死亡率を減らすためには、やはり転移再発も超早期に発見するあるいは予防を実現することにあります。われわれ九州大学病院別府病院外科では高度な手術に加え、転移再発で死なないためにがん研究によるアプローチを進めています。本講演では以下の話題を中心にお話をさせていただきたいと思えます。

- ・超早期診断法(転移再発)
- ・免疫力が、いかにがんの転移や生命予後を決める上で重要か?理解を深める
- ・がん転移予防のための薬剤について、今話題の抗体療法とわれわれの取り組み

### 特別講演 講師

## 九州大学病院別府病院 外科 教授 三森 功士 先生



日本外科学会	: 認定医・専門医・指導医
日本消化器外科学会	: 認定医・専門医・指導医
日本消化器外科学会	: がん外科治療認定医
日本臨床腫瘍学会	: 暫定指導医・教育医
日本がん治療認定医機構	: がん治療認定医
日本乳癌学会	: 認定医

学位: 医学博士(九州大学)

平成16年度 日本癌学会研究奨励賞 授賞  
平成18年度 文部科学大臣表彰 若手科学者賞 授賞  
平成23年度 日本医師会研究奨励賞 授賞  
平成28年度 高松宮妃癌研究助成賞 受賞 ほか

ホルトホール大分  
〒870-0839  
大分県大分市金池南1丁目5-1  
Tel: 097-576-7555

